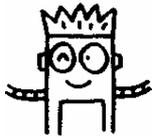


## アメリカは、なぜ黒船を日本に出したの



じょうきせん せきたんほきゅうきち ほげいせん  
蒸気船の石炭補給基地を設けることや、捕鯨船の  
船員を保護することが、必要になったからだよ。

1853年、浦賀<sup>うらが</sup>に来航したペリーは、日本側代表に、アメリカ大統領の手紙をわたしました。その手紙の内容は、日米間の親睦<sup>しんぼく</sup>・貿易、アメリカの商船・捕鯨船への石炭・まき・水・食料の補給のため、開港（外国船の出入りが許された港）を一つ設けること、船がそうなんして、日本に流れ着いた船員の生命・財産を保護すること、の3点でした。アメリカが日本に、このような要求をした裏<sup>うら</sup>には、次のような事情がありました。

### 蒸気船の石炭補給基地が必要になった

当時のアメリカでは、機械を使った工業生産がさかんになり、綿製品などの工業製品が、たくさんつくられるようになりました。これらの工業製品を売りつける相手として、目をつけたのが、人口の多い中国です。1842年に、イギリスが香港<sup>ホンゴン</sup>を手に入れ、中国に進出する根拠地<sup>こんきょち</sup>にすると、アメリカも、中国と条約を結んで、貿易を始めました。しかし、当時の蒸気船は、重くてかさばる石炭を、あまり積めなかったのです。そのため、太平洋のあちこちに、石炭を補給する基地を設けることが、必要になりました。

### 捕鯨船などの船員の保護も必要になった

当時のアメリカでは、機械を一日中動かす工場が、増えてきました。夜間に仕事をするためには、照明用の鯨油<sup>げいゆ</sup>（くじらの油）が、たくさん必要でした。そのため、捕鯨業がさかんになり、日本の近くまでも、アメリカの捕鯨船がやって来ました。しかし、船がそうなんして、日本に流れ着いた船員は、罪人<sup>ざいにん</sup>のようなあつかいを受けました。アメリカにとって、捕鯨船などの船員を保護することも、必要になったのです。